

第2回「関西観光・文化振興計画」検討委員会（書面開催）要旨

- 1 日 時 令和6年9月4日（水）から令和6年9月13日（金）までの間、
書面開催
- 2 開催内容 「第3期関西観光・文化振興計画（仮称）」（中間案）の素案に対する
意見聴取
- 3 送付先 藤野委員（座長）、橋爪委員（副座長）、大浦委員、岡部委員、
川森委員、北村委員、木ノ下委員、坂上委員、東井委員、横井委員
- 4 主な意見 ⇒：事務局回答

○本文について

【将来像】

- ・持続可能とは、保全、修復、整備という基本をニュアンスとして表現することが
適当。歴史文化の継承と発展、観光資源の保全と整備

【戦略】

（全体）

- ・各府県や市町村で取り組むべきことと、広域行政として戦略的に取り組むべきこ
とを、メリハリをつけて提示することが必要。

（個別）

- ・「文化観光」という言葉があった方がメッセージとしては強い。
⇒項目名等に「文化観光」という文言を入れることを検討する。
- ・文化と観光の人材育成において双方をクロスオーバーさせるセミナー等の実施が
望まれる。
⇒最終案に向けて文化分野と観光分野人材の交流・連携について記載を検討する。
- ・スポーツ MICE なども含めた広域での MICE 振興が必要。
- ・災害時の支援等の情報を観光関係団体の各発信ツールで多重的に流していくのが
よい。
- ・「滞在型観光の推進」が必要。観光消費を伸ばすためには、宿泊数を増やす必要が
ある。
⇒最終案に向けて「滞在型観光の推進」の戦略への追加を検討する。
- ・有形・無形の文化資源を活用したナイトタイムエコノミーの実現は重要な課題だ
が、具体性をもって描く必要がある。
⇒具体的な事例を示すなど、記載の修正を検討する。
- ・「文化芸術の拠点形成」とあるが、拠点とは箱もの、組織、機能、何かわかりにく
いのでもう少し明確にしておく必要がある。

- ・持続可能な観光の推進のためには観光従事者だけでなく、地域の環境や慣習・文化を尊重する観光者を育成する取組も重要。

○ キャッチフレーズについて

- ・「関西を創造する文化と観光の融合」が尖った部分を強調できるのでは。
文章表現については、キャッチフレーズと一つの文章の方が箇条書きよりわかりやすい。

○ 目標について

- ・量から質への転換を強く意識づけるためにも、訪日外国人旅行者「数」については目標から外してはどうか。
- ・観光の目標値は、地方への分散が計れる指標が必要ではないか。
- ・博物館施設への入館者数のみ掲げられているが、もう少し多面的に設定する必要がある。
- ・将来像の核となる新たな文化芸術産業は、クリエイティブ産業の分野と想定されるので何らかの関西でのデータ収集の検討を。

※ 書面開催の意見を踏まえ、本文の修正・記載の充実を行う。

<配布資料一覧>

資料1 第3期関西観光・文化振興計画（中間案）の概要（素案）

資料2 第3期関西観光・文化振興計画（中間案）の本文（素案）

資料3 回答様式 中間案に対する意見